

# 本能まちづくりニュース

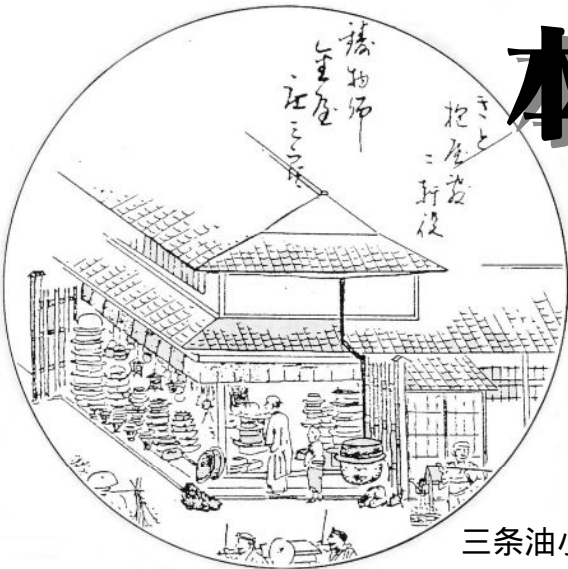
第51号 平成21年10月7日発行

本能まちづくり委員会  
委員長 杉下浩教

E-mail: post@honnoh.net

URL http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。



三条油小路町絵図より鑄物師釜屋庄三郎方

## 親子で染め隊 わいわいがやがやワークショップ

この10年、本能学区に新しくファミリーマンションや戸建住宅が建ち、「新住民」と呼ばれる居住者が大幅に増えて若い世帯も多くなりました。新しく引っ越してこられた方やマンションにお住まいの子育て世帯の方々へこの本能学区の文化をもっと知ってもらいたい、そして地元の人たちとの交流ができればという思いから、本能まちづくり委員会では高倉小学校「スマイル21プラン委員会」を通して、小学生親子対象に染を学び体験するワークショップ(全4回)を企画しました。名付けて「親子で染め隊(そめたい)」。その第1回ワークショップが7月11日、本能自治会館で開かれました。

「親子で染め隊」第一回染めワークショップに参加していただいたのは、親子16組、高倉小学校の先生など、そして学生なども合わせると60名以上にもなりました。また、親子の内訳は、児童が23名、親御さんが16名でした。

大人も子どもも楽しみながら、本能や染めについて知ってもらおうと今回の「親子で染め隊」を実施しました。当日はまず司会の挨拶の後、親子対抗本能染めクイズ大会を行いました。大人チームと子どもチームを分け、更に子どもグループは低学年から高学年をまんべんなく組み合わせさせてそれぞれのチームに一人ずつ学生が入りました。その大人チームと子どもチームの対抗戦でクイズを行いました。

クイズでは、大人と子どもに年齢と知識のハンデがあるため、子どもチームにのみヒントを見せることにしました。子どもチームはヒントを元にクイズを答えていきましたが、さすがは大人チーム、子どもチームに全く引けをとらずに次々と難問を正解していききました。特に古典紋様の名を当てるクイズでは両チームかなり悩んでいましたが、ここでは大人チームがその実



力を見せ付けていました。子どもチームは染め色の漢字を当てるクイズに大苦戦。しかし、色の名前である玉蜀黍(とうもろこし)や、勿忘草(わすれなぐさ)などを写真で見せると次々に正解、結果的にクイズは接戦となり大いに楽しんでいただけたように伺えました。

クイズ大会に勝敗はつけず、お菓子を食べながら交流していただき、その後、前本能まちづくり委員長 西嶋さんから本能の染めについて、ビデオやスライドを用いて紹介していただきました。この日は一回目ということで、染めについての知識や本能学区についての説明などが多く、講義のようになってしまったため、子どもたちは少し退屈そうでしたが、次回からは実際にデザインを決め、染めを体験できるので子どもたちももっと楽しんでくれるはずです。学生の私たちにとって、今回の「親子で染め隊」では、本能や染めに対する大人チームの関心が高いことが印象的でした。第2回以降も継続的に参加していただき、より本能や染めについて知っていただきたいです。

これから参加者の方々の染め体験によって形作られていくのれんが楽しみです。

「親子で染め隊ワークショップ」は全4回で構成しております。第2回は10月3日(土)、第3回は12月5日(土)、第4回は12月12日(土)に実施いたします。また、今回不参加の方でも第2回目から参加していただけます。次回からも楽しい企画を用意しておりますので是非お越しください。

(立命館大学 乾ゼミ3回生 山崎達哉)



第2回ワークショップの報告はまちづくりニュース52号に掲載する予定です。なおこの取り組みは、平成21年度「中京区にぎわいのあるまちづくり支援事業」の補助金交付対象事業として採択されました。

本能まちづくり委員会では「親子で染め隊」で制作したのれんやタペストリーを来年3月のイベント(のれんスタンプリング)時に、エントランス付近に飾っていただけるマンションを募集しています。掛ける場所やサイズ・形状などについては、相談させていただきたいと思いますので、是非ご連絡ください。【連絡先☎ 杉下浩教 ☎221-0613】

## 本能の歴史雑感 その3

元本能寺南町 高山禮蔵

### 西洞院川

江戸時代の古地図をみると西洞院川は御池通りから南へ流れが表示されている。二町西を流れる堀川は洛北西加茂の山中から流下する小さい川筋が農地を巡り、堀川鞍馬口から市街地に入り、茶道表裏の千家の屋敷前を流れ、小川通に沿って南下、一条で西へ曲って堀川に合流する。一条以北の堀川は今出川で途切れる。以南は堀川大路の中央を流れているが年代を経るに従って両側の道中は狭まってくる。市中を流れる堀川は下水道設備の無かった時代、両岸から道路脇の溝を伝って流れてくる汚水や雨水を集め、八条辺りから農地を巡り桂川、淀川へ合流する。市街地の堀川では友禅染の糊落しの水洗も江戸時代中期頃から盛んにおこなわれたのであろう。

さて西洞院川も堀川同様溝伝いに流れ込む汚水、雨水を集め桂川へ合流する。この様に都市生活では大量に生じる排水の処理に市街地を縦貫する河川の存在は欠かせぬものであった。

戦国時代と称される室町時代、商業活動の盛んな下京の地では、相次ぐ戦乱に対応した防備策、防犯策として道路に木戸を設け夜間の出入りを制限したり、堀を巡らせて盗賊などの侵入を防いだりと、いろいろな対策を講じている。

その一つとして四条坊門通の南側に下京惣構への濠が設けられている。洛中洛外図屏風(杉本家本)の一部に流下する西洞院川、川に板を架した橋、四条坊門と西洞院の交差する南側に設けられた木戸、往来する人々、本能寺の堂宇と僧侶が画かれている。少なくとも室町時代末期現在の蛸薬師通の西洞院、油小路間は北側は本能寺の堀、南側は下京惣構の堀両側に水路が並んでいた事になる。

江戸時代に入って本能寺跡地に人家が建並ぶと、現在の池須町西側の各家は前を流れる西洞院川に橋を架けて出入りしたのであろう。明治30年代、西洞院川は埋立てられ、流水は道路下に設けた暗

渠を流れることになる。池須町西側の家々は埋立てられた土地を得て道路に直接面して新築したり増築したりして現在の姿になっている。

私が父親から聞いた話であるが、川が流れている明治中期までは洗濯に近所の人々が川辺に集まったそうである。それこそ桃太郎の童話ではないが、お爺さんはどこへ行ったか知らないが、「お婆さんは川へ洗濯に行きました」と云った光景が繰り広げられた。この西洞院川の下流では西洞院紙と称する今で云うトイレットペーパーの紙漉きがおこなわれていた。

六角通以北は西洞院と小川の家並の間を流れていたようである。古地図を見ると鉤の手状に曲って西洞院の通りへ水路が出張っている部分もあった。六角西洞院西入ル約30mぐらいの所に道中一杯に石の板が敷詰められている部分があり、これが西洞院川を渡る橋の名残りであったが何時の間にか取外されている。確か昭和20年頃までは残っていたのだが。「講釈師見てきた様な嘘を云い」的な内容で恐れ入るが、近時知り得た情報をもとに私の推測も交えて雑文をまとめてみた。 完



### ものしり講座特別編

本能のまちと「染め」～京染めの歴史と技法～  
10月24日(土) 午後2時～ 本能自治会館にて  
講師：坪内三郎氏／西嶋直和氏  
※ 詳細はポスター、チラシをご覧ください。

### 「おいでやす染のまち本能」ボランティアスタッフ募集!

11月15日(日) 午前10時～午後5時、拠点：本能館  
工房ツアーグループの見守り、油小路通の安全確認、会場整理など  
※ 詳しくは回覧等をご覧ください。

【連絡先☎ 杉下浩教 ☎221-0613】

## 学区情報

### 暑さも不景気も吹き飛ばす 本能夏まつり ～今年は大にぎわい～

8月22日、本能自治連合会主催の本能夏まつりが開かれました。地域住民主体の夏恒例の行事は世の中の不景気など感じさせない盛り上がりようでした。会場となった本能グラウンドは、6月に50cm間隔で植えた芝生の苗が根を張り、緑の面積も広がりました。芝生になったグラウンドを初めて目にした方も多かったと思います。途中30分ほど夕立があり、芝生の存在感が一層際立ったようでした。



午後5時、小学生は早速ゲームコーナーへ、また小さなお子さん連れの若いファミリーは屋台へと足を運んでいました。ゲームコーナーは、スーパーボールすくい・コイン落とし・輪投げ・ダーツ・射的、そして味自慢の飲食コーナーは、かき氷・たこ焼き・餃子・トウモロコシ・焼きそば・フランクフルト・流しそうめん・おにぎり・フライドポテト・カレーライス・ドリンクと充実のラインナップ。スタッフは本能自治連合会の各種団体や本能特養、立命館大学・同志社大学・京都御池中学校(剣道部)の皆さんで、材料の仕入れから下準備、調理と大奮闘です。また地域のお店コーナーには、米満(和菓子)・双月堂(クッキー)・かね繁(枝豆・パイナップル)・共同作業所ソルト(小物)が出店して祭りに花を添えていました。



一方ステージの上では、杉下浩教夏まつり実行委員長・平野雅左夫本能自治連合会会長の挨拶の後、カントリーバンド“ドリフティングホーボーズ”の演奏が始まりました。「カントリーロード」「テネシーワルツ」といった本格的なカントリー演奏を聴くのが目的で、祭りに来られた方もおられるほどです。このほか佐々伸郎さんのハーモニカ、高元浩子さんと井上一明さんのアルトサクソ・シンセサイザーの演奏と歌に加え、スペシャルゲストとして(!)本能まちづくり委員会T氏と立命館大学乾ゼミY君(両氏とも名前は非公表)による、ユニットバンド“ザ・本能ズ”のギター演奏と歌の初披露がありました。まちづくり委員会の芸達者登場に、地域住民も仲間の大学生も大きな拍手を送りました。

祭り開始後1時間足らずで会場は人で埋め尽くされました。高倉小学校で子供同士が友達という、マンションにお住まいの3人のお母さん(古西町・橋浦町・本能寺

町)は「久しぶりに母親同士で会って、とても盛り上がっています。夏休みももう終わるので、宿題の話でもちきりです」「毎年夏まつりを楽しみにしています。屋台も美味しいです」と話してくれました。夏休み中の情報交換の場となっているようですね。また明倫学区から来られた、小さなお子さん連れのお母さんは「本能学区の友達に誘われ、子供に浴衣を着せてお祭りを楽しませたいと思って来ました」。他の地域にも口コミで本能夏まつりが浸透しているのは嬉しいことです。そして橋浦町のマンションにお住まいの松田さんは「屋台のおかずも安くて美味しくて、良心的です。子供さんの数が多いのに驚きますね。芝生も随分成長して、砂ぼこりもたないいいですね」と早速芝生化グラウンドの印象を語ってくださいました。ありがとうございました。



午後7時過ぎ、炭坑節が流れ、櫓(やぐら)太鼓の音が響くと、盆踊りの輪が広がります。今年は盆踊り練習会も事前に行われ、多くの大学生が踊りの輪に加わり、足運びの難しい江州音頭やアップテンポの曲をこなしていました。また地域の年配の方々、特養の入所者さんも介護ヘルパーの方と共に積極的に参加して楽しんでいました。踊る人、あるいはお喋りに興じる人と、夜9時過ぎまで本能グラウンドは明るさに包まれ、今年の夏まつりも「地域交流の場」としての役割を担うことができました。(ゆ)

今回の夏まつりでは、立命館大学乾ゼミによる「染め体験展示会」コーナーを設けました。2007年10月20日に高倉小学校と京都御池中学校の皆さんが参加してくれた「染めのワークショップ」での、のれん制作風景の写真をパネル展示しました。そして今年度高倉小学校と協力して、のれんやタペストリーを制作する「親子で染め隊」を企画(この時点で1回目のワークショップは終了)しているので、その参加者の募集と、制作したのれんを飾ってくれるマンションの募集も行いました。残念ながら祭りという状況下で、このコーナーに足を運んでくれる人は少なかったのですが、ゼミ生が小学生グループや親子を見つけては声をかけ、「染め隊」への参加をアピール。学校からのお知らせプリントで「染め隊」の認知度は高いようで、お母さん・おばあさん世代には好評の企画のようです。

またマンションにお住まいの方へ、春のまちづくり委員会主催のイベント時に、マンションのエントランス付近に制作したのれんを飾ることにに関して尋ねたところ、「エントランスという共用部分の性質上、管理組合の合意を得なければならないかも」と条件付ながら、「イベント時に華やかさが増す」「地域のアピールができるからいいと思う」と概ね好意的な回答を頂きました。

## 2009年 還幸祭 コラボでもてなす三条通

7月24日祇園祭の還幸祭で三条通りは賑わいました。

日の高いうちは、のれん里親制度に協力いただいているお宅に、柿・深緋・松葉・黄檗染・弁柄・青磁等々ののれんが吊られ、彩りを添えました。

夕暮れ頃からは三条通の両脇に並べられた行灯が、やわらかな光を放っていました。この時期、毎年「三条通を考えよう会」の方々が三条通でもてなしを工夫しておられます。今年は14日から宵山16日まで、三条新町角のガレージで「十人灯色」行灯作りを呼びかけられ、「去年も作ったから」というリピーターも多く参加されて、150個制作されました。「考えよう会」メンバーの京都工芸繊維大学佐々木研究室・まちづくりサークルの学生さん達の考案で、今年行灯の光源はタッチライトで、安定していました。従来は、和紙やコップを使い、蠟燭を点けておられ、揺れる明かりは情緒がありましたが、風で消えたり、紙が燃えそうな時もあり、やや危険でした。行灯の絵付けは子供らしいものから、文字、風雅な絵まで様々。一つ一つ見て歩くのも楽しいものでした。足元には行灯、目を少し上げると三条通に面するお宅の玄関先に、人力車に乗った戸主家族写真。この簾に貼られた白黒写真が、夏には涼しげで、それでいて家族のほのぼのしたあたたかさを感じられ、道行く人が覗き込んでおられました。

8時を過ぎて、いよいよ御神輿の巡行です。神宝を運ぶ宮本組の行列の次に、馬に乗った久世駒形稚児が先導する中御座(三若)、少し時間をあけて東御座(四若)、そして西御座(錦)の三基の御神輿が続きました。三条油小路角(木村庄ガレージ前)で三基の御神輿が休憩、「差し上げ」を披露され、盛り上がりました。三油の町内会が中心になって担ぎ手のみなさんや見物のお客さんにアイスキャンデーのもてなしをされ、御神輿が到着すると大変な活気でした。まちづくり委員会の学生さんも手際よくお手伝いしました。いつ梅雨が明けるのかと思われる天候が続いていましたが、この日は降らず、無事に還幸祭を終えることが出来ほっとしました。(N村)



三条油小路角ののれん



タッチライト光源の行灯



威勢のいい中御座(三若)の皆さん

## 新本能施設長に崎山氏

高齢者福祉施設本能開設以来、施設運営に、また本能学区のまちづくりに、ご尽力くださいました宮本龍家氏が、去る8月10日にご退職され、後任の施設長に崎山康治氏が就かれました。今後とも、本能学区をよろしく願います。

### ご挨拶

いつも高齢者福祉施設「本能」を応援していただき有難うございます。宮本前施設長からバトンタッチしました崎山康治(さきやま・やすじ)でございます。これまで、福祉事務所や市社協などで福祉の仕事をしてまいりました。百二十名の職員とともに、地域との連携を密にして、地域の一員として、また、地域の福祉サービスの拠点として活動してまいりますので、よろしく願い申し上げます。



崎山康治氏

## \*\*\* サークルお誘い \*\*\*



私たちは、「池坊 本能クラブ」の名前で活動している生け花サークルです。10年程前に少年補導の安西さんの提案で始まりました。

先生が、とても優しく、丁寧に指導していただきますので、月に一回の気楽なお稽古という感じで続けています。

本能校跡に特養ができ、まちづくり委員会さんから「おいでやす染のまち本能」を本能館で開催するから、花展をやってみたら?と声をかけていただきました。恥ずかしいやら嬉しいやらでしたが、それ以来「毎年3月は花展」という気持ちが皆の心の中にできました。行事に参加させていただく喜びがあり、達成感も感じます。活動を続けていてよかったです。

ささやかな、小さなサークル(7人)ですが、皆さんも参加してみませんか? 毎月ほぼ第4火曜日 20時から。花材代¥1000、親子で参加もオーケーです。お待ちしております。(神谷 広美)

【連絡先☎ 090-1955-4664 神谷】



**ひとりとこと** ◎地域の夏の集大成は、いつも賑やかにいられる夏まつりと地蔵盆。脈々と受け継がれる行事はやがて伝統に、そしてそこに住む人の「心の文化遺産」となります。(ゆ) ◎高齢者・乳幼児を抱えていると、新型インフルエンザ流行のニュースにピリピリします。感染防止に努めたいものです。(N村)